

平成30年度学校評価表

鳥根県立宍道高等学校

教育目標		評価計画				自己評価				学校関係者評価									
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a] (昨年)	評価値 <定時> (昨年第)	評価値 <通信> (昨年第)	評価値 [b] (昨年第)	達成指数 [b/a] (昨年)	評価 (昨年)	結果と課題の記述	評価	コメント	次年度への改善策				
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自らを理解し主体的に学ぶ意欲を育てる	学力の向上 一人一人の学びを表現し、主体的に学ぶ態度を養う。	わかる学習指導の実践 ○授業の大切さを理解させる ○少人数指導・授業の工夫および改善 ○単位修得率の向上	教務	全講座の平均出席率(定時)	85%	82.1%	—	82.1%	96.6	B	前期中間試験(6月)までが87.8%、前期期末試験(9月)までが81.8%、後期中間試験(11月)までが81.6%、12月末までが78.0%であったが、年間を通じては82.1%となった。今年度も年度当初から長欠になってしまう生徒が一定数いた。担任等によるフォローもあり長欠者以外の出席率はおおむね横ばい状態となっている。長欠者へのフォローのあり方、休みながらもなんとか登校できている生徒への継続したフォローのあり方が引き続き課題である。	A	・スクーリングとレポート添削に満足している生徒の割合の達成及び通信制の単位修得割合の向上が続くよう取組を続けてもらいたい。	【教務】 ・通信制のスクーリングとレポート添削に満足している生徒の割合は目標値を上回っており、引き続き高い割合を保てるようさらに生徒の実態に合わせ、内容を充実させる。 ・通信制の単位修得率も引き続き高い数値を維持できるよう半期単位認定制度の理解の徹底を行い単位修得の意識高揚に努める。 ・これまでの生徒の異動を整理し、長欠者等への対応の一助になるデータを整えたい。 ・教員の指導力の向上・充実について、わかる授業づくりを目指した「10の視点」の研修やICT機器の活用等の有効性はかかれるような評価指標の複数項目の設定を検討したい。				
						85%	+4.5	—	+4.5	91.3	B								
					少人数指導が自分に合っていると感じている生徒の割合(定時)	90%	93.4%	—	93.4%	103.7	A					今年度で7年連続、目標値を超えた。「少人数指導」が安心して登校できる理由の1つになっている。ただ卒業後に社会の中でたくましく生き抜いていくためには、自分で自分をコントロールして自律した学校生活を送ることはもちろん、ひいては、より大きな集団の中で安定した社会生活を送れるよう成長を促す支援が必要だと感じている。従来通りきめ細やかで丁寧な少人数指導の中で安心感を持たせつつ、10の視点にもある集団を意識した指導等を推進していくことが今後の課題であると考えている。			
						90%	+1.2	—	+1.2	102.4	A								
					スクーリングやレポート添削の内容に満足している生徒の割合(通信)	90%	—	94.4%	94.4%	104.9	A						通信制の学習システムがよく理解され、スクーリングとレポート作成をうまく連動させて学習ができていく結果と考えられる。添削の内容に加え、レポート返却の速さも満足感に表れていると考えられる。提出期限日のシステムが定着し、生徒が計画的にレポートを出しやす環境が整備され成果があがっている。今後本校生徒の実態を踏まえ、さらに適したレポート作成、スクーリング実施が課題である。		
						90%	—	-0.2	-0.2	105.1	A								
					単位を修得した生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	85%	83.5%	—	83.5%	98.2	B							(後期中間試験結果に基づく見込み数です。)授業への出席や授業内容の理解等、安心して学習できる授業環境を整えることができ、目標値を超えることができようである。学年会や個々の担任・教科担当の協力のもとで欠課時数が増えつつある生徒への継続的な声かけを行うことができている。単位修得に至らない生徒に対しても、個々の状況に応じた声かけ等を実施していくことが課題である。	
						85%	-2.4	—	-2.4	101.1	A								
					70%	70%	—	75.3%	75.3%	107.6	A								今年度から半期単位認定制度となり、1単位以上修得できた生徒は前期72.0%、後期65.7%であった。年間を通して最低でも1単位以上修得できた生徒は75.3%であった。通年で単位を認定していた昨年度より数値が上昇したのは半期ごとの単位認定で、1年間継続して学習するのは難しいが、半期ならなんとか取り組めたという生徒の努力が結果として形になったためと考えられる。今後単位が全く取れなかった生徒への単位修得の意識高揚が課題である。
						70%	—	+11.4	+11.4	91.3	B								
	授業公開旬間は授業力向上に効果的だったとする教員の割合	80%	62.5%	—	62.5%	78.1	C	今年度は昨年度より1回多い年間2回で実施した。実施方法は、1回目は自由参観として、2回目は昨年度と同様に授業者が公開日を設定する方法をとった。また夏休みには、第1回公開旬間の総括として「10の視点に係わる研修」も行い、各教科ごとに「10の視点」についての成果と課題について話し合い共通理解を図ることができた。ただ、評価指標については、旬間を通して自分の授業改善にまで到達しているかという観点から、至らなかったと判断された方もあったのではないかとと思われる。また、「10の視点」だけではなく、新学習指導要領を見据えた授業の工夫と改善をどのように進めていくのか、各教室に設置されたICT機器の効果的な活用方法の共有など授業公開旬間の在り方を検討して、学校全体としてわかる学習指導の推進を目指して授業改善が進む環境を整えていきたい。											
		80%	-23.0	—	-23.0	106.9	A												
	読書意欲の喚起と利用促進 ○図書整備と資料の充実	80%	89.4%	92.4%	90.9%	113.6	A		昨年度同様に図書館を利用しやすいと感じている生徒の割合は多い。図書館オリエンテーション、平日の開館日・時間の周知や日曜スクーリング開館、図書館だよりによる効果を感じる。										
		80%	+3.7	-3.9	-0.1	113.8	A												
	地域研究活動の推進 ○宍道町を学びのキャンパスとした地域学習の充実	70%	71.7%	—	71.7%	102.5	A			初めての評価項目で目標値をほぼ達成出来たのは良かった。定時制全体で今年度実施したボランティア活動や地域を題材とした各種の学習等を実施したことによるものと思われる。ただし、「わからない」「思わない」と答えた生徒の割合も高く、今年度の取組をベースとして生徒一人一人が地域の学びの中で地域の一員であることを意識してもらい、自己有用感を持たせる効果的な取組の一つとして来年度以降も発展的に継続実施していきたい。									
		-	-	-	-	-	-												
	進路の実現 社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。	個々の進路実現に重点を置いた支援 ○ハローワーク、ジョブカフェ等と連携しての就職支援 ○面接指導、作文、小論文などの個別指導の徹底 ○通信制卒業予定生の個別支援の充実	就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合	90%	100%	97.8%	98.9%				109.9	A	3/29現在、卒業予定者128人(定38・通90)中、進路決定者は93人で、進学決定者が50人(定14・通36)、就職決定者が37人(定12・通25)である。就職決定者の内訳は新規就職者が34人(定12・通22)、既就職者とアルバイト継続が6人(定2・通4)である。また進学・就職以外で、専業主婦や進学浪人、卒業目的の生徒が33人(定10・通23)である。一方で進路未決定者が2人(定0・通2)おり、現在も就職・進学の活動を支援しているところである。 進学・就職とも試験を受けた生徒については、順調に進路決定に近づいている。一方、進学・就労が様々な理由で困難な生徒も多く、そういう生徒への支援のあり方が課題である。						
				90%	0.0	-2.2	-1.1				111.1	A							
		系統的な進路指導と望ましい勤労観・職業観の育成 ○キャリアカウンセリングプログラム等による系統的なキャリア教育 ○企業見学、インターンシップ、キャリアガイダンスなどによる体験的な学習の充実	進路学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	80%	87.4%	92.3%	89.9%				112.3	A		概ね良い評価が得られているのは、様々な学習歴・生育歴を持つ生徒に対して系統立てたCCPによる進路指導が機能していると考えられる。また、通信制の生徒は数値が高く、進路に対する意識に高いものを感じられる。課題としては、定時制の生徒の1年次は自己理解や自己肯定感を高めるよう促し、2年次以降はできるだけ早く進路目標を持たせる指導が一層求められるところである。					
				80%	+9.5	+1.9	+5.7				105.2	A							
企業見学やインターンシップ、外部講師による講演会は役立つと感じている生徒の割合		85%	87.3%	94.3%	90.8%	106.9	A	インターンシップ、外部講師講話、卒業生(進学者・就職者)を招いての講話と座談会、企業見学等々の企画が生徒へよい成長刺激となっていると言える。生徒の感想にも前向きなものも多く、意識の高さが伺える。一部の生徒にはこれらの行事が将来設計に直接役立っているとは言えず、インターンシップの企業選択、実施後の発表会のあり方など、より吟味を加えたい。											
		85%	+2.7	+3.9	+3.3	102.9	A												
生徒・保護者への適切な進路情報の提供 ○碧雲通信・進路だより・ホームページによる情報発信 ○進路のしおりの活用 ○進路相談会の実施		提供された進路情報や進路だよりは役立つと感じている生徒の割合	80%	84.9%	94.1%	89.5%	111.9		A		昨年より目標値を5%上げ、80%とした。HPのアップ、進路のしおり、碧雲通信、進路便り、進路情報誌など、それぞれの場面で生徒はよく活用していると言えよう。ただ、CCPの生徒個人持ちのファイルに綴る配布資料が多く、その都度生徒は目は通しているものの、事後活用に繋がらず、さらなる資料精選の策を考える必要がある。								
			75%	+7.8	+0.5	+4.1	113.8		A										

		評価計画				自己評価						学校関係者評価				
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a] (昨年)	評価値 <定時> (昨年度)	評価値 <通信> (昨年度)	評価値 [b] (昨年度)	達成指数 [b/a] (昨年)	評価 (昨年)	結果と課題の記述	評価	コメント	次年度への改善策	
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自然や文化を愛し、自分を大切にするとともに、他の人を大切にするとともに、豊かな心を育てる	安全・安心の確保	学校生活において、自らが明るく学び合える環境づくりに努める態度を育てる。	生徒	自尊感情をもつとともに他者を認め合うことが大切だと考えている生徒の割合	90%	93.5%	92.9%	93.2%	103.5	A	目標値の90%を定時制、通信制ともに越えた上、全体的には昨年に比べ若干ではあるが上昇している。定時制における少人数指導、通信制における細やかな指導の効果ができていると思われる。	A	・いじめの認知と組織的対応の効果があつたようであることから、初期段階からの認知と共に組織的対応を続けてもらいたい。 ・図書の出冊数と1人あたりの貸出冊数との整合性をどうみるか。 ・人権・健康と大切な項目である。全体的自己評価が上昇していることは好ましいことと思う。	【生徒部】 ・生徒の実態に即し、単なる知識にとどまらず、自分を大切にするとともに他の人も大切にできる行動ができるように人権・同和教育を推進していく。 ・生徒一人ひとりを大切に教育を一層すすめることにより、生徒自身が大切にされていると思えるような環境づくりをする。 ・いじめに対する組織的対応を教職員の共通理解のもとで図っていく。	
					教育活動において、命や人権に関する学習が役立っていると考えている生徒の割合	80%	88%	96.9%	92.5%	115.6	A	全体的には目標値の80%を超えた上、昨年よりかなり上昇している。定時制・通信制ともに上昇しており、特に通信制は評価が著しく高かった。人権ホームルームや情報モラル講座、心と性の健康講座などを通じて命や人権を尊重する教育活動を行うと同時に、生徒の振り返りシートや教職員へのアンケートをもとに少しずつ改善を重ねながら続けてきた成果があらわれていると思われる。				
					いじめを許さない雰囲気づくりと組織的対応	80%	+5.3	+10.3	+7.7	105.8	A	「いじめを許さない雰囲気づくり」を目標にかかげ、LHRや全学年次集会等で指導を重ねた。実態把握のために「いじめに関するアンケート」を年2回行う一方で、定期的に開かれる生徒支援委員会・いじめ防止委員会において、いじめの早期発見に努めた。また、年度初めに、本校の「いじめ認知と組織的対応」について校内研修を行い、共通理解を図った上で取り組んだ。軽微ないじめ及びいじめと疑われる事象が数件あったが組織的に対応した結果、ほぼ収束に向かっている。				
					いかなる理由があつてもいじめをしないことにしている生徒の割合	100%	94.7%	96.9%	95.8%	95.8	B					
				保健相談	健康管理意識の啓発 ○保健相談部より、一斉メール、保健室前の掲示物等による情報発信 ○健康診断、健康管理簿、日々の健康観察を利用した健康管理の推進 ○健康教育講座の実施	80%	78.1%	96.7%	87.4%	109.3	A	保健相談部より、メール一斉配信等により、年間を通じて心身の健康に関する情報提供を行った。自分のからだや健康に関することはもちろん、タイムリーな話題を取り上げるようにした。春から夏にかけては、熱中症対策、食中毒注意、秋から冬にかけてはインフルエンザの予防、手洗いうがいの励行等すぐに役立つ情報提供を心がけた。保健相談部よりには、生徒からの要望を取り入れた内容を掲載したり、健康教育講座後には講座の内容に関わる記事をまとめた。しかし、定時制の生徒の中には少数ではあるが持ち帰らない生徒がいたり、欠席が多い生徒へはなかなか渡せないこともあった。				
					相談活動の充実 ○生徒支援委員会を活用した教職員と教育相談スタッフとの連携 ○家庭や医療機関、専門機関等との連携	80%	83.3%	84.4%	83.9%	104.8	A	教育相談員事業やスクールサポーターに対して、定時制でも通信制でもかなり高い評価が得られた。これは、教育相談員やスクールサポーターとの日々の振り返りや勤務記録簿を活用した情報の共有などで生徒の様子を継続的にとらえ、教育相談員・スクールサポーター・教職員等が連携し、それぞれの立場から粘り強く生徒に関わってきた成果であると考えられる。そして、この相談事業、相談活動が校内に定着してきた結果だともいえる。支援が必要な場合はその都度関係する教職員で情報を共有しているが、より早く支援体制を整え支援できるとよかった。				
					図書情報	生徒1人当たりの年間貸出冊数	年6冊	4.2冊	—	4.2冊	70.0	C				通信制の生徒の増加は、半期単位認定制度により、後期からも改めてレポート学習等が必要なため図書館を利用したと考えられる。反対に、定時制生徒の減少が課題である。原因をさぐり、利用促進の方法などの検討が必要と感じる。
						年間2冊以上借りた生徒の割合(上:定時)(下:通信)	年6冊	-3.3	—	-3.3	108.3	A				
				40%			36.7%	—	36.7%	91.8	B					
				読書意欲の喚起と利用促進 ○明るくさわやかな環境づくり ○「図書だより」の充実	40%	-14.2	—	-14.2	127.3	A						
					20%	—	28.3%	28.3%	141.5	A						
				社会とのつながりの中で自ら考え行動し、自ら律する態度を育てる	自律・自立	基礎・基本を身に付け、自律・自立する態度を育てる。	生徒	体育・文化的行事と生徒会活動の充実	70%	82.6%	63.4%	73.0%				104.3
全教職員によるルール・マナー指導の徹底 ○校舎内外のパトロールの実施 ○「あいさつ運動」の実施	80%	84.9%	82.3%					83.6%	104.5	A	目標値を超えた上、評価値が昨年よりかなり上がった。定時制の上昇は顕著であった。「学校や社会のルールを守る」ことに対する評価は、定時制・通信制ともに高かった。入学生に対する「年度当初のルール・マナー指導」、日々の全職員で取り組んでいる「マナーアップ運動」などの効果により、問題行動も以前に比べ減少している上、規範意識も高まっている。しかし、実態を見る限り十分とは言えないので、今後も継続的な取組が必要である。一方、「あいさつ」に対する評価は、定時制・通信制ともに低かった。自己肯定感や自己有用感、コミュニケーション力などを高めるように、教育活動全体の中で生徒にどのように働きかけるかが課題である。					
学習環境の整備と環境美化 ○校舎内外の施設設備の点検と環境整備の推進 ○清掃活動やごみの持ち帰りを通じた環境美化への態度の育成	80%	+6.0	-0.4					+2.8	101.0	A	ごみの持ち帰りについては、前年度同様、生徒の意識が高いことがわかった。これは学校をあげて取り組んでいることであり、定着してきた結果だと考えられる。しかし、平素の清掃や大掃除に対する意識は低い。生徒が実施する平素の清掃はSHR後の短時間であり、毎日決められた清掃の時間があるわけではなく、その中で多くの作業をすることは難しい。大掃除は年に2回という限られた回数であるが、普段できないところまで清掃させ、校舎の美化を図っている。生徒へは様々な機会をとらえて環境美化を呼びかけ、その意識を高めることが必要である。					
ボランティア活動の奨励 ○地域ボランティア活動の実施、外部ボランティアの奨励	80%	91.6%	87.0%					89.3%	111.6	A	定通ともに目標値を大きく上回った。定時制では全体で実施したボランティア活動の結果が出たと思われる。通信制では初めて質問事項として取り入れたが、教育開発部出来る前の昨年度ボランティアの呼びかけ、今年度の取組等でボランティアに対する意識の高さが表れたように思う。今後も生徒の主体性を引き出し、地域との関わりを意識しながら自己有用感を持たせるための効果的な取組として積極的に推奨したい。					
総務	地域の人々との交流と学校施設の開放 ○公道公民館との連携を図る	地域交流活動の年間実施回数	40回				52回	52回	130.0	A	昨年大幅に増加したが、本年度は昨年度以上に増加した。教育開発部の新設によりボランティア・地域交流活動が活発になった影響と思われる。また、教科ごとの交流も昨年より増加した。					
		施設の開放	20件				23件	23件	115.0	A	駐車場の利用は昨年度よりは減ったが、盛んである。特にしんじ幼稚園にとっては必須の駐車場となっている。					
	図書情報	地域の方々への学校図書館の開放 ○地域向け「図書館だより」の内容充実	地域の方々の平均図書館利用数				10人(月)	9人	9人	90.0	B	新規の方も含め一定の利用がある。地域向け図書館だよりの発行やHPでの広報活動を行えた。				
			10人(月)				+0.1	+0.1	89.0	B						